

抱擁

北欧の春の祭典

沈鬱なる^{ひかり}陽光の角度の高まりの^{もと}下

臥所の上にて毛布を剥ぎ
女の白き裸身に唇を触れ
おお、汝、滑やかな膚よ
この異教の儀式を愛と呼ぶな
おお、陽光よ、我等が生命の糧よ
今ここに汝を我が泉の奥に招じ入れん
脚を開け、女よ
今こそ汝の肉体の奥深く生命を注ぐ時
泉を湧き出させて迎え入れよ
今こそ我が魂を放たん

(1984.12.24)